

南ア月報
(2019年3月)

【内政】

- I E C (南ア選挙管理委員会) による各政党立候補者最終確定名簿の発表

【外政】

- ラマポーザ大統領のエスワティニ訪問
- シスル国際関係・協力大臣のナミビア訪問
- 西サハラとの S A D C 結束会議の開催
- シスル国際関係・協力大臣のモザンビーク及びジンバブエ訪問

【経済】

<経済指標>

- 2018 年の経済成長率
- 信用格付
- 消費者物価指数 (CPI)
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- 建設会社大手 Group Five の破産申請
- Eskom による計画停電
- IMF による南アの高等教育無償化案に関するレポート

【広報・文化】

- 「日本文化祭」の開催
- 南ア国際問題研究所 (SAIIA) との共同セミナーの開催
- ラグビーワールドカップを題材とした新旧ラグビー南ア代表による講演会

【警備】

- ダーバンにおけるカージャック犯の検挙

1 内政

● I E C（南ア選挙管理委員会）による各政党立候補者最終確定名簿の発表

29日、I E C（南ア選挙管理委員会）が総選挙の各政党立候補者最終確定名簿を発表した。5月8日の総選挙に向けた準備が進められている。

2 外政

● ラマポーザ大統領のエスワティニ訪問

3日、ラマポーザ大統領はシスル国際関係・協力大臣及びレツァツィ＝ドゥバ国家安全保障大臣とともにエスワティニを訪問した。ラマポーザ大統領は、ムスワティ3世国王と会談し、幅広い分野における二国間関係及びSADC地域における動向について意見交換を行った。

● ラマポーザ大統領のジンバブエ訪問

11日から12日まで、ラマポーザ大統領はジンバブエを訪問し、ムナンガグワ大統領と会談し、共同声明を発出した。同声明において両者は、戦略的関係を前進させるために貿易及び投資を拡大させることの重要性を強調した。また、同国経済を苦しめている違法で不当な制裁の解除を訴える南ア政府及び国民の不動のコミットメントを高く評価している旨述べた。

● シスル国際関係・協力大臣のナミビア訪問

14日から15日まで、シスル大臣は南部アフリカ開発共同体（SADC）閣僚会合に出席するためナミビアを訪問した。

● 西サハラとのSADC結束会議の開催

25日から26日まで、南アフリカで西サハラとのSADC結束会議（SADC Solidarity Conference with Western Sahara）が開催され、ラマポーザ・南アフリカ大統領及びガイゴンゴブ・ナミビア大統領（SADC議長）ほか、が出席した。

● シスル国際関係・協力大臣のモザンビーク及びジンバブエ訪問

28日、シスル大臣はモザンビーク及びジンバブエを訪問し、サイクロン被害に対する両国への南ア市民・企業・外交団メンバーからの寄付の贈呈を行った。

3 経済

<経済指標>

● 2018年の経済成長率

南ア統計局は、2018年の経済成長率（GDP）が0.8%だったと発表。当地の財務省及び準備銀行は、事前予想を0.7%、ブルームバーグがとりまとめた市場予想は0.6%だったことから、やや上向きの結果となった。2018年、南ア経済は停滞していたものの、当地アナリストらは、2019年は経済成長率1.5%も視野にあるとしている。今般発表された経済成長率0.8%は、主に金融、不動産、ビジネスサービス部門で前年比1.8%増となったことや、2018年第4四半期の製造業の成長率が4.5%増となったことが後押ししたとみられる。（南ア統計局、3月14日）

●信用格付

29日、信用格付機関のMoody'sは、同日に予定していた南ア国債の格付け更新を見送った。現在、Moody'sは南アのランド建て及び外貨建ての双方を、投資適格水準の最低にあたる「Baa3（BBB-相当）」としている。（注：他の格付機関、Fitch及びS&Pがすでに南ア国際を投資不適格にあたるジャンク級としていることから、Moody'sが南ア国債を格下げした場合、南アが国際債券指標から外され、大量の資本流出につながる可能性を市場が懸念していた。）次回の更新時期は未発表だが、従来の11月頃あるいは南ア大統領選挙後の5月が予想される。（ビジネスデイ電子版、3月30日）

●消費者物価指数（CPI）

2月の消費者物価指数（CPI）は、前月の4.0%から4.1%に上昇。特に交通費で前年同月比3.6%増となり、度重なるガソリン代の値上げが反映された形となった。（南ア統計局、3月20日）

●為替レート

2019年3月29日付（南ア準備銀行）

7.5904 円/ランド

14.5968 ランド/米ドル

16.3878 ランド/ユーロ

●製造業生産高

1月の製造業は、前年同月比0.3%増。主なプラス要因は、食品・飲料製品で2.9%増、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品で0.9%増。最大のマイナス要因は、鉄鋼、非

鉄金属製品及び電気機器で 3.2%減。季節調整後生産高は、前月比 2.0%減。過去 3 ヶ月間の季節調整後生産高は、前期比 0.4%増となり、製造業 10 部門中、7 部門での増加がみられた。（南ア統計局、3 月 14 日）

●鉱業生産高

1 月の鉱業生産高は、全体で前年同月比 3.3%減となった。主な要因は、ダイヤモンドで 37.0%減、鉄鉱石で 27.7%減、金で 22.5%減、クロム鉱石で 7.3%減、及び石炭で 6.4%減。他方、PGMs の生産高は前年同月比 28.1%増。季節調整後生産高は、前月比 0.2%増。過去 2 ヶ月間の季節調整後生産高は、前期比 4.7%減となった。（南ア統計局、3 月 14 日）

●自動車販売台数

今年に入ってから続く新車販売の不振が、3 月も継続。国内販売台数は前年同月比 3.1%減の 47,718 台。他方、輸出販売台数は前年同月比 23.7%増の 37,296 台と順調をみせ、年内の輸出販売台数は昨年 35 万台から 40 万台に増加すると予想。国内販売台数は、86.4%をディーラー業界、6.6%をレンタカー業界が占めた。販売車種のうち、3 ヶ月連続で商業用車は販売減を記録。他方、軽自動車、バギー及びミニバス、中型・大型トラックなどは、緩やかではあるが、販売が伸びている。（南ア自動車工業界、4 月 1 日）

<出来事>

●建設会社大手 Group Five の破産申請

13 日、南アの建設会社大手 Group Five 社は、過去 1 年以内で 5 社目となる破産申請を行った。同社の時価総額は、ピーク時の 2007 年、82 億ランドから 2019 年 3 月には 9990 万ランドまで急落し、ヨハネスブルグ証券取引所から 45 年ぶりに上場廃止となった。Group Five 社の急落は、国内の建設業界における不振が反映されたもの。（ビジネスデイ電子版、3 月 13 日）

●Eskom による計画停電

25 日、Eskom は 3 月中旬から断続的に行っていた計画停電を、向こうしばらくは実施しない予定であることを発表。電力供給を行う 5 ユニットが回復し、モザンビークからの電力調達ラインも一部改善し、関係者によると、今後 15~18 ヶ月間は計画停電を実施しなくてよい状況にあるとした。（ビジネスデイ電子版、3 月 25 日）

●IMF による南アの高等教育無償化案に関するレポート

21 日、IMF は、南アの初等教育と中等教育の基盤が確保されていない現状下で、南ア政府が検討している高等教育無償化に疑問を呈するレポート（「Struggling to Make the Grade: A Review of the Causes and Consequences of the Weak Outcomes of SA' s Education System」）を発表。レポートでは、国内が直面している教育問題への解決策には、政府は限定的な成果しかあげられていないことに触れ、長期的な改善を見据えて、教職員の訓練、学校運営の改善等に取り組むべきと指摘。（ビジネスデイ電子版、3月25日）

4 広報・文化

●「日本文化祭」の開催

当館は、当地大型ショッピングモールである「ブルックリン・モール」（プレトリア）において、1日から3日にかけて一般市民を対象とした「日本文化祭」を開催した。日本企業（当地富士フィルム、NEC及びアシックス）協力の下実施された同文化祭では、本年9月～11月に日本で開催されるラグビーワールドカップに焦点を当てつつ、日本映画上映（君の名は。、シン・ゴジラ、バケモノの子、海街 Diary）やひな人形の展示等日本の伝統行事ないし文化の紹介に加え、当地骨とう品収集家による室町時代の甲冑や打ち掛けの展示が行われたほか、当地生け花団体、盆栽団体、各種武道団体（柔道、剣道、弓道、空手及び居合道）、コスプレ愛好家、琴演奏家、和食料理人によるデモンストレーションが行われ、3日間で約4,500人が来場するなど好評を博した。

●南ア国際問題研究所（SAIIA）との共同セミナーの開催

7日、当館は南ア国際問題研究所（SAIIA）と共催の上、「インド洋における日本及び南アフリカの共通利益」と題するセミナーを開催し、細谷雄一慶應義塾大学教授が講演を行った。

同セミナーでは、自由で開かれたインド太平洋の実現へ向けた日本・南ア間における協力の可能性や、世界情勢等に関して活発なディスカッションが実施された。

●ラグビーワールドカップを題材とした新旧ラグビー南ア代表による講演会

27日、当館はプレトリア大学において新旧ラグビー南ア代表を講師に招き、ラグビーワールドカップを題材とした講演会を開催した。

2015年南ア代表キャプテン・スクラムハーフのFourie du Preez氏による「ブライトンの奇跡」と言われる同大会日本・南ア戦を題材とした日本組織論に関する分析のほか、現役南ア代表フライハーフで日本でのプレー経験も持つElton Jantjies氏による2019年日本大会への展望等について発言があった後、聴衆との質疑応答がなされた。また、当地ラグビー協会が運営する旅行代理店から、2019年大会チケット情報を含む日本観光情報提供

セッションも行われた。

ラグビーは当地で国民的人気を誇るスポーツであり、会場を訪れた人々は、訪日に向けた準備をすぐにも始めると熱を込めて語っていた。

5 警備

●ダーバンにおけるカージャック犯の検挙

7日、ダーバンにおいて、警察の特別捜査隊等が20～22歳の4人を銃撃戦の末に逮捕した。警察がハイジャックされた車両を発見した際、容疑者が警察の停止を振り切って逃走したため、警察が追跡し銃撃戦が始まった。その際、容疑者の1人は銃弾により下腿を負傷した。

容疑者の車両を調べた結果、盗まれた携帯電話と無認可の銃器・弾薬が発見され、その車両がグリーンウッドパーク地区でハイジャックされた車両であることが判明した。容疑者は窃盗、殺人未遂、銃及び弾薬の不法所持の疑いで起訴された。